

今月もとても楽しく、また、心して読ませていただきました。

見慣れたはずの日常の風景に思いがけず未知のものが含まれていることに気づかされたり、自分なりのやり方で今を生き抜こうとする姿に打たれたり、さまざまに心に残る作品がありました。

指先で弾いたら  
コツコツと鈍い音のする器  
まだ割れてないのに  
もう割れてるの

春町 美月（大阪府）

「器」が内包している未来の時間、音となって現れた時間の姿にはっとさせられました。

荒野にも海があること、信じてる

伊丹真（東京都）

「海」に対するほとんど盲目的な強い希求に打たれます。

刺繍をする。  
凶案も彼も私も  
明日の歯医者予約も消えて  
手に  
針と糸と布だけ

春町 美月（大阪府）

「。」が玉結びのようにも見えます。あらゆるものから解放される奇跡の時間を持つことの喜び。

悲しみを  
鞆に少し持ち歩く  
風に飛ばされないための  
重み

桜望子（千葉県）

「悲しみ」は今の自分の生きる証でもあるのでしょうか。孤独のありようが胸に迫る一篇。

私が自然体でいるために  
あったことにされた二重幅  
無かったことにされた産毛

浅葱（愛知県）

あるがまま＝「自然体」という世界への抵抗。「自然体でいるため」にしたプチ整形と脱毛だが、「あったことにされた」「無かったことにされた」に否定された自己への痛みを感じました。

どんなに残酷な歴史でも  
本屋には美しく並べられる

宇井 麻千（大阪府）

考えたこともありませんでしたが、確かにそうだと。人間の業を突きつけられているようでドキリとしました。

今宵見る夢は悪夢にちがいない  
傷んだ爪にマニキュアを塗る

いろは（京都府）

マニキュアを塗ったまま眠ると悪夢を見るのか、悪夢退散のためにマニキュアを塗るのか、いっそ悪夢を迎えるために塗るようにも読めます。どこか捨て鉢な祈りのよう。

安かった鶏むね肉の状態を  
気かけながらする遠回り

青木雅（埼玉県）

「遠回り」するのは、なにかロマンチックな理由かもしれませんが、その気持ちだけに浸ることを阻むささいな気がかりの存在、日常の営みとともにある心のありようにリアリティを感じます。

東京に埋もれちゃってるおじさん  
の骨を拾ってあげたい、全部

青木雅（埼玉県）

東京＝戦場のイメージで、戦いに敗れ去った「おじさん」たちの累々と積み重なる骨が浮かび上がってきてショッキングですが、泣けるような優しさが伝わってきて惹かれます。ユニークな言い回しのなかに日本の現状への批評性も感じられました。

幸福とは  
深爪した親父が  
缶ビールを中々開けれず  
なお 微笑むあれだ

山口 航平（佐賀県）

明るく優しくせつない作品。父の深爪を知っているというところに、父との関係性も見えます。まっすぐ心に沁みました。

おつり 777円が  
どうしたって言うの

神様なんていない  
そう決めたハタチの夜

君風 波音（埼玉県）

ラッキーセブンを喜ぶことは世のジンクスにとらわれることでもある。切実さとともに、幸運は自分の力でつかむというすがすがしい決意も感じられます。

わたしなら  
良い悪霊になるでしょう  
躊躇なく花の水切りをして

桜望子（千葉県）

「水切り」は切り花を長持ちさせる方法ですが、鋏を入れる行為であり、そのことが「良い悪霊」につながっているのでしょうか。いわく言い難い余韻が残ります。

海を分け合った仲なのに  
どうして君は暴れない

ヒロミヤカザル（京都府）

思いの激しさに世界が張り裂けたかのよう。

カップ麺に溢れても  
溢れても溢れても  
溢れても湯を注ぐ  
私は生まれ変わる

宇井 麻千（大阪府）

「生まれ変わる」ことと「カップ麺」の落差に惹かれます。壊れかけた心を奮い立たせる「生まれ変わる」という意志が、カップ麺にお湯を注ぐことに結びついているところが面白くもあり痛切でもあります。

浦歌無子